

アルミニウムで水素発電

富山県高岡市

アルミの街、富山県高岡市がアルミのリサイクルで脱炭素に取り組んでいる。市民が持ち寄る廃アルミを水素発電に生かし、製造に必要な電気の少ない再生アルミの研究や活用に力を入れる。2050年に温暖化ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラル実現へ環境省の「脱炭素先行地域」に選ばれた街が挑む。

高岡市の中心商店街、御旅屋(おたや)通り商店街の商業施設前に8月中旬、一風変わった回収



仮置きされたアルミの回収ボックス(富山県高岡市の御旅屋通り商店街)

産官学民、脱炭素へ再生も

脱炭素化と街の未来について語る角田高岡市長(富岡市)



ボックスが登場する。市が集めるのはアルミ缶だけだけでなく、家庭で発生する使用済みのアルミ缶や菓の包装材料などの廃アルミである。



富山大学高岡キャンパスで、小学生に向けたアルミへの理解を深めるイベントが開催された(27日、高岡市)

ク(高岡市)などが活用する。同社はアルカリ性溶液で廃アルミを溶かし、発生させた水素を燃焼して発電する環境負荷の小さい装置を2026年までに実用化しようとしている。

主にアルミ製品の生産現場から出る端材の活用を想定しているが、「家庭から出るアルミ缶や包装材料は薄手のものが多く溶かしやすい。発電原料としては好都合」(水木伸明社長)という。

高岡市の角田悠紀市長は脱炭素先行地域としての取り組みについて「ことがった部分をつくる必要がある。『脱炭素の街』を打ち出すためにアルミリサイクルに焦点をあてた」と話す。

